第５回　中野市立小学校及び中学校適正規模等審議会会議録

○　日　時

平成 25 年３月 26 日（火）午後３時～午後５時 15 分

○　場　所

中野市豊田公民館２階会議室

○　出席者

【審議会委員】

小島哲也会長、清水正副会長、北澤逸雄委員、上原一雄委員、下川昌平委員、宮入靖委員、山屋秀夫委員、市川和仁委員、市川大輔委員、小林健一委員、伊藤勇委員、酒井美智子委員、北原新一委員、柴垣顕郎委員、古川今朝治委員、湯本一委員

【市】

横田教育次長、荻原学校教育課長、杉本学校教育課長補佐、大沢副主幹、千田主査

○　会議内容

１　開　会（15:00）

副会長：中野市立小学校及び中学校適正規模等審議会を開催しますが、始めに会議の成立についてご報告させていただきます。審議委員は 25 名でございますけれども、本日は委員が 25 名中 17 名の委員さんの出席でございます。欠席が８名、それから宮入委員さんが遅刻して参るということでございます。太田委員につきましては、ちょっと連絡がないので間もなくということでございます。早退でございますが、ＰＴＡの市川さんが４時頃退席ということでございます。それから下川教頭、山屋教頭も４時 30 分頃で退席ということで。そんな内容でございます。だいぶ人数が少なくなっておりますけれども、過半数には達しております。宜しくお願いしたいと思います。それでは小島会長の方からご挨拶申し上げ、続いて会議は会長が招集し、会長が議長となるということでございます。本日の会議の内容をお話いただいて、進行の方をお願いしたいと思います。宜しくお願いします。

２　会長あいさつ

会　長：皆さんこんにちは。年度末のお忙しい中、集まっていただきましてありがとうございます。学校園では終業式、卒業式と終わっておそらく年内の引継ぎをやっていらっしゃる忙しい時期かなと想像します。４月から新年度を迎えるにあたっていろいろやら

なきゃいけないことが沢山あるかと思います。この審議会もそうでして２年にまたいで活動をしまして、今年度の締めくくりということで、何か大きな幕引きになる訳ではなくて、来年度にも引き続いて会議をやらなきゃいけないということで、少し春休みの雰囲気もちょっと私も大学に勤めているのであるんですけれども、気を引き締めてやってまいりました。今日は第５回の審議会ということで会議を開きます。議事録それからご案内の中で、今日の審議会の会議のテーマ、やり方そして新年度の予定も含めて案内があったかと思います。今日は前回に引き続いて、グループ別の討議をやりたいと思います。宜しくご協力下さい。お願い致します。着席して進行させていただきます。お手元の次第をご覧下さい。会議時事項の中で、学校と地域という今日のテーマをこんなふうに一応定めてグループ別の討議で２回目というふうにさせていただこうと我々の方でお話をさせていただきました。前回、グループ別の討議で話し合いをもっていただいた時のテーマが少子化時代における学校教育のあり方についてということで、やや掴みどころがない大きなテーマだったんですけれども、それでも自由に各グループで話し合いをしていただいて、その中でどういう話し合いがあったのか問題点等ありましたら報告、発表して欲しいということで進めました。会長の立場で前回の話し合いのまとめ、議事録にも目を通しながら振り返りますと、やっぱり各グループで話し合った中で、学校が地域にとってどういう意味を持つのか、地域が学校にとってどういう役割を持つのかということが、かなりの委員の大半の方から意見とか問題提起とかが出ていましたので、それを今回、もう一度取り上げてテーマとしたいということでお願いしたところです。グループ別の討議の進め方です。これは前回と同じようにグループに分かれてやるんですが、実は前回、学校の校長先生、教頭先生の委員の方の欠席が。すみません、前回欠席された方にも、前回どんなふうにやったかということをちょっとかいつまんで申し上げますと、３つのグループに分けて、４人か５人のグループで先ほど言いましたテーマについて話し合いを持ちました。最初に自分の少子化時代における学校教育のあり方というテーマについて付箋をお渡しして、そこに自分なりの考え等を自由に書いて模造紙の方へ貼り出してそれを基に話し合いを進めるという。慣れない者にとってはちょっとどんなふうに進めていったらよいか分からなかったんですけれども、事務局の方から説明をしていただいて、グループの中で自由に話し合いをしていただきました。その上で各グループのお話し合いが終わった後、まとめをしていただいて全員の前でどんな話し合いであったかを発表していただきました。それが議事録、まとめの中で書かれていたとおりです。今回、そんなふうに進めていきたいと思います。お手元の資料の２枚目に分散会グループ別名簿というのがあります。今日も３つのグループに分かれます。前回のグループと基本同じようになっておりますが、欠席されて今日初めてグループ討議に加わる方は、ご自分のグループは１、２、３のどこかと。一応各グループで司会とか取りまとめの委員の方に座っていただくことになります。会長の私、小島それから副会長の清水委

員は一応グループ１そしてグループ２に入っておりますけれども、３つのグループがどんな話し合いができているのかというのを、自由に動いて聞かせていただくというふうにしたいと思います。その話し合いをどのくらいですかね。今日の予定だと 30 分は話し合いに取って宜しいですか。グループ別の討議は 30 分。その後、前回、実はグループ別の討議をするのに島を作って、机をアレンジしてやって、そのままの形で発表をボードでしていただいたんですけれども、このロの字型というんですか、このアレンジの方へまた戻って発表を今回していただこうかなと思います。少し最後のところが雑然としていたので落ち着いてまとめを聞かせていただきたいので、そんなふうにしたいと思います。30 分の話し合いの後、少し時間を置いてまとめをしていただいて、そして全員こういう形になって発表を 15 分ぐらい、３グループ、１、２、３の順番で発表をお願いしたいと思います。会議の事項の２その他というのは、来年度４月以降の案内も今回差し上げましたので、その辺の案内も私の方からしたいと思います。宜しくお願いします。今日の進行について何かご質問がおありでしょうか。小林委員さん。

小林委員：倭小の小林です。質問等ではないんですが、ちょっとお話いただきたいというか、お聞きいただきたいことがありまして、倭小学校は実はだいぶ切羽詰まっていまして、平成 27 年度、入学生が２人しかいないんですね。それにあたって、例えば統廃合とは違うんですが、この審議をするにあたって最終的には答申をする訳ですけれども、答申時期が早まったとしまして、例えば来月に答申ができたとします。その後に教育委員会で答申に基づいて審議を行い、統廃合をするしないかを決めていただいて、実際に実践いただく場合において、最低どのぐらい年数がかかるかというところを事務局としてお聞きしたい。つまり、たとえ来月出ても３年後、５年後になるのか。もう再来年に際した話なので、非常に当学校としましては早急に対応していかなければいけない状況にあるので、その辺をお聞きしたいと。今日、お答えいただかなくても次回どこかでお話いただければと思います。オフレコでも結構です。この話は。それにあたって、学年で２名なので長野県教育委員会としましても複式学級の適用の人数になると思うんですけれども、現在、当校は複式学級適用の人数なんですが、校長の申請によって不適用としていただいているんですけれども、その不適用さえできない人数があると思うんですが、その人数が決まっているのであれば教えていただきたい。その２点であります。今のことも踏まえて後の答弁に反映いただければなと思います。

会　長：今の小林委員の質問は事務局の方へのご質問ですか。

小林委員：はい。そうです。そういった状況も踏まえて討議いただきたいというのと、実際問題として事務的に決まり事がどうなっているのかということを知りたい。ここでは分からないので事務局を通じて何かしら回答いただければなと思います。

会　長：はい。それではご質問の内容としては事務局の方へ。宜しいですか。回答をお願いしたいということですが。後でも。

小林委員：今、時間が無駄になるといけないのでいつでも結構です。

会　長：後でも宜しいですか。

小林委員：はい。

会　長：今、１点目のご質問の中でこの審議会の答申が来月かというようなお話がありましたけれども。

小林委員：例えば、そこまで早めたとして、その後にまた教育委員会で答申に基づいて審議をして結果を導いていく訳ですけれども、その期間は必ず何か月、何年とある訳ですが、それをどれくらい見込んでいるのかということを知りたい。そうでないと私たち学校の今後のあり方というのも校内で決めていかなければいけないので。

会　長：少なくとも来年度一年は、この審議会自体は続くというふうに私もお引受けする時にはそのつもりで。長丁場になるなというつもりでいたんですけれども。それも含めて。

事務局：今、お答えしますか。

会　長：いいですか。はい。

事務局：それでは事務局の方からお答え申し上げます。まず、一番ご心配な２名で複式になってしまうのではないかということなんですが、27 年、皆さんにお渡しした資料では３となっているんですが、その前後の学年が足して８未満でなければ、長野県。国は複式なんです。今、現在も倭では複式の部分があるんですが、県の方で補填というか、かけていますので、長野県方式では複式にはならないということであります。宜しくお願いします。それからもう一つ答申が早まった場合でございますけれど、答申の内容を今から想像することはちょっと不可能なので早まったとして後どのくらいかかるのかということが、答申の内容によってちょっと変わってくると思うので、素直にお答えすることができないんですが。答申をいただければ今までお話したように、教育委員会では大至急その答申に沿って、11 の小学校と４つの中学校の点検をさせていただきますが、ちょっと答申の内容が想定できませんのでここでお答えするのはちょっと不可能かと思うんですけれども。宜しいですかね。

小林委員：分かりました。ありがとうございます。それで結構でございます。もう一度確認ですけれども前後 10 人と申されましたか。

事務局：８人です。

小林委員：８人ということは。

事務局：２年と３年ですよね。１年は免除ですよね。２年と３年の時に足して８未満だと複式になる可能性があるんですが。県基準です。以上です。

会　長：はい。ありがとうございました。今日の進行の方へ移らせていただきますが宜しいでしょうか。はい。それでは事務局の方からグループ討議の進め方をもう一回、前回と同じ様に説明していただいて机のアレンジをします。

事務局：それではご説明申し上げます。皆さんにテーブルごとにグループに分かれていただきます。その時にこういう付箋をお渡ししますので、学校と地域について自分が思っていらっしゃること、ご意見等をこの付箋に書き出していただきます。お一人方、何枚

で何十枚でも書き出してもらって結構です。書き出していただき、その後、ここにありますけれども、そのグループ内で出していただいて議論していただきながら同じ意見についてまとめていただいて、このような意見をまとめていただくというような形になる訳ですけれども。そんなことで宜しいですかね。

会　長：おそらく前回、私の感覚からすると付箋に書きはするんですけれども、それをどうグループ分けするのかというところがやり方が分からない。やり方は自由だけれどもそれはちょっと決めておいた方がいい気はするんですが。

事務局：はい。分かりました。この付箋に書いていただいて、それぞれ意見を述べながら白い紙のところへお出ししていただく訳ですが、その中で、各グループの中でこれとこれは同じ意見だよねということでまとめてもらって、それにグループの題をつけてもらうということで、発表の時に分かりやすくなると思うんですけれども。もしそれぞれがまとまらなければ、まとまらないご意見でいくつもグループに分かれていいです。必ずしも４つにしなさいということではありませんので、自分と同じ意見の方のところへ付箋をつけて、のせていただいてグループということにしていただければと思うんですが。そんな説明でいいですかね。

会　長：同じ意見、関連するものを一つにまとめても構わないということですよね。

事務局：はい。

３　会議事項

（１）学校と地域（グループ別による討議）

会　長：それでは机の移動をお願いします。

（準　備）

会　長：先ほど 30 分と言いましたが、切りのいい４時まで話し合いをお願いします。

（グループ討議）

会　長：それでは予定の時間を過ぎましたので、元の体制に戻って、各グループ 10 分以内でグループ討議のまとめを、発表をお願いします。第１グループ、第２グループ、第３グループと。

（まとめ）

北原委員：地域ということで今日のテーマをいただきました。第１グループの北原でございます。

代表して説明させていただきたいと思います。前回の討議の中で地域という限定してお話をいただいたんですが。今回、我々の話の中で少子化ということを考えて、少子化と地域との関係でどんな問題があるのか。赤い色の付箋で現状の課題というか問題点でございます。大きく分けて、地域の特徴が教えにくい、子どもの孤立化、あるいは地域との大人との関係が薄くなる、地域間の連携という４つに分けました。地域の特徴。地域の特徴を教える必要があるのかということはまた別にしまして、やはり地域と教育というのは。教育環境というのは地域からバックアップしなければならないということで、やはり地域に特徴があるということが必要であろうと。一つには地域が見える、地域が見えるというのは例えば具体的に今、お話があったんですけれども、ボランティア活動で廃品回収をやってリサイクルで、古新聞とか段ボールというような物を集めますよというような話があります。そういったものも一つの地域との連携ではないか。中野市の学校教育課の資料によりますと、やはり中野市は地域との連携が非常に高い、全国平均でもかなり高いということが出ておりますので、それが一つの特徴なのかなと思います。しかしながら、少子化に伴って、そういった地域との関連も少なくなるのではないかなと。それから各地域、具体的には学校区の中で、一つの部落で一人とかということになりますと、どうしても地域に対して一人で。具体的に言って昨日、うちの部落ではどんど焼きをやったよといっても、一人で行ってもそうかで終わってしまう。ところが 10 人いたとしますと、昨日、実は面白かったよ、どんど焼きやったよということになりますとやはり地域に対して関心を持つことができる。そういった意味での地域ということが、やっぱり少子化に伴って、地域への関心というのがどんどん薄れていっちゃうのではないか。この青いのが解決策。解決策になるのか分かりませんけれども。例えば具体的に言いますと、先ほど言いましたようにボランティア活動などで公園の掃除をしよう、お宮の掃除をしよう、それは一つのボランティア活動で、地域との関連が出てきます。それはやはり少子化に伴ってやはり人数は少なくなりますが、地域間でやはり応援をして、地域の方が一人しかいなければ、他の部落の生徒会たちが応援をして一緒に掃除をしようとかというようなことが出てくるんじゃないかなと思います。地域の特徴ですので、例えば、うちの部落は山芋を沢山作っていて、うちは中野市の中で一番出来がいいというふうになると、この地域は山芋がいいんだよ、盛んなんだよということを皆が知っているということによって、地域の特徴を意識してこの地域が成り立っているんではないかということも必要。逆にそういうことを教えて、少子化に伴ってそういうことがだんだん薄れちゃうとある意味地域という特徴が掴めなくなって結局、将来、学校を出て都会の方に行っちゃうんじゃないかと。地域の魅力がなくなってしまうということも一つの問題ではないのかなと。それから子どもの孤立化ということがあります。結局、子どもがだんだん一人とか、先ほど小林さんからお話がありましたように一人とか二人になっちゃいますと、どんどん友達が少なくなっちゃうんですよね。今までワイワイガヤガヤ。

子どもが社会性という意味でもだんだん薄れちゃうということで、お互いに子どもの頃は地域で遊んだりしている訳です。最近はあまり遊ぶ子どもたちもいないかも知れませんけれど。やはり一緒に遊ぶという。地域の子どもたちと一緒に同級生たちがあるいは同じ学校の人が一緒になって遊ぶ。そういうことが少なくなって子どもが一人何もすることもなくて。子どもの孤立化を防ぐためにはどういう方法があるかというと、例えば部落間の相互訪問、イベントがあった場合、お祭りがあった場合に、子どもたちだけでイベントがあった時に見に行こうではないかとか。このようなことも相互訪問と考えられるのではないか。小学校の授業なんかでもそうですが、地域を定期的に、今度はここのお宮さんが非常に歴史が古くて今から200年ぐらい前にというようなことで、実際に地籍を見に行くというようなことも地域を知るというか、子どもの孤立化を避けるという意味で良くなるんではないか。もう一つは地域との大人との関係が薄くなっちゃうということで。一つは関係が薄くなるということになると、将来の懸念としてそのままどこかへいっちゃう、地域へ定着しなくなるということも一つの問題ではないか。それから地域の子どもたちに自主的な活動、つまり先ほどもちょっと言いましたようにボランティア活動もそうなんですが、自主的な活動が何かやれることがあるんではないか。子どもたちを巻き込んだり、イベント化することも必要なのではないか。あるいは地域との関係では階層別に、例えばＰＴＡばかりではなくてもっと年寄りと一緒に交流会みたいなものを、子どもたちがもう既に大きくなった人たちも含めてそういった階層別の交流会みたいなものが定期的にやる方法がないのだろかと。それから地域間の連携というのがあります。地域間の連携というのはいろいろありまして、少子化によって連携というのは非常に希薄になってくるということが問題。つまり地域間の連携がないということになると、地域の特徴も教えることが出来なくなるということで。今、地域間では学区ではスポーツや音楽などがありますが、宮入先生の話ではありませんけれども、文科系ですね。例えば、英語なんかでディベートができる、討論会できる、発表会ができる。あるいは中学生の場合ですけれども音楽会などの文化的な部分での交流会をやれば、もっと学区で地域でお互いのことがもっと分かってくるのではないか。ちょっと話が違うんですが、最近は女子の方がパワーが出ちゃって男子が小さくなっているという、これは少子化とはちょっと別ですけれども。ちょっと問題だなということで、先生もお困りになっているということでございます。男がだらしなくなったというのは、少子化の一つの典型的な日本的な事象ではないかと。何か付け加えることがありましたら。簡単で限られた時間でございますので。ご質問等がありましたら。宜しいですか。ありがとうございました。

会　長：それでは第１グループに引き続いて第２グループの方。

下川委員：すみません。ちょっと４時30分から出ちゃうので。第３グループの発表は私なので先にやらせてもらえればなと思います。

会　長：それでは第３グループの下川先生、宜しくお願いします。

下川委員：宜しくお願いします。最初に付箋の方でいろいろ意見を出していく中で、特に話し合いの中心がそちらにいったという訳ではないんですが、まず地域というものについて、広さだとか何を指すのかというような話を最初にしながら進めてきました。まとめていく中で、地域と学校というよりも地域の中のつながりが変わってきているなと。昔であれば、地域、住んでいる場所でのつながりが強かったんだけれども、今は目的によってというんですかね、例えば、クラブのチームの保護者同志のつながりであるとか、そういうもののつながりが強くなってきていて、ほんとうに隣近所のつながりというものの弱さというんですかね、薄くなってきているということがすごく感じるなという意見が出ました。ですので、こういう中で地域と学校と考えた時に、地域というのはほんとうにこの地図の中でのものなのか、そこに住んでいる人たちのつながりを地域というのかということを考えていかなければいけないなというふうな意見も出ました。あと先ほど第１グループのところでも出てきましたけれども、少子化というのはイコール地域力の低下ということにつながっていると。そんな中でも、前の時にも出ましたけれどもどんな子どもたちを育てたいかという話の中で、豊かとかたくましいとかそういう言葉が依然出てきたんですが、今日は丸い人間づくりというような言葉が出てきました。やはり丸い人間づくりをしていくには、たくさんの経験を積めるような環境というようなものを作っていかなければいけなくて、それは学校であり地域だと。ということまでは分かるんですけれども、それがイコール適正の規模の問題につながるのかどうか。例えば規模がそのままであってもなんらかの工夫でたくさんの経験を積ませたりすることはできないのかなと。要するに、地域の中の学校というものがある中でも多くの経験を積めるような場をつくるようなことはできないかなという話が出ました。それからその他の話の中で地域の中での学校の位置とか、地域の中での学校の必要性というんですかね。昔は学校と地域との歴史というのはいろいろあったり、それから文化の中心という部分もあった訳ですけれども、今、ほんとうに地域の中での学校というのはどう必要なのか。学校は地域の力が必要ということは、今もいろんな場面で地域の講師の方であるとか地域へ出て行く学習というようなことで、非常にいいものが得られているんだけれども、地域の中で学校が必要なのか、どんなふうに必要感があるのかということも考えていきたいなと。ただ地域と学校ということにこだわっているのは、もしかしたら大人だけで、子どもたちは見ていると地域を超えたつながりでもいい経験を積んだり、楽しい経験を積んで育っている姿を見ると、地域、学校というふうにこだわっているのは、もしかしたら大人だけなのかなというような意見もありました。ちょっとまとまらなくて申し訳ないですが、以上で第３グループの発表を終わらせていただきます。

会　長：ありがとうございました。第３グループの委員の方、何か補足があれば。宜しいですか。はい。それでは第２グループ宜しくお願いします。

柴垣委員：到底まとまらないので、断片的になるかと思いますが、皆さん補足してください。山

屋さんも市川さんも帰られてしまったんで、伊藤さん、補足をお願いしますね。まず、地域というのが、地域には学校というのは大切だという意見が出ました。学校がなかったらいったい地域は子どもにどう向き合うのだろうと。地域がどういう子どもを望むかとか子どもにどんなことを期待するかとか、表現の集約された象徴的な場が学校であろうという意見が出ました。あるいは他の方からは、自分たちが地域の小学校を卒業して大きくなり、自分の親もそうだし自分の子どももそうで、代々続く地域の時間的連続性みたいなものを表現しているのが学校だという。これは農村部の方からだったんですけれどもそういう意見が出ました。ただ学校がなかったらいったいどこで地域や故郷という感覚が身に付くんだろうとか、地域にとって学校が大切だという意見が出されました。地域というのはすごいものだと。子どもを見守ってくれるし、ある学校によっては、その地域の親はその学校の特に農村部の地域のすべての子どもの名前を知っているというんですね。この中野市の学校と地域のつながりの良さみたいなものを大事にしていかなければいけないという意見が出ました。１番目です。地域にとって学校の大切さというのが出たように思います。２番目として学校と地域の関係が話されました。特に２番目のテーマの前半は都会と農村部との比較の話が話されました。都会と農村部の比較というのは、首都圏と中野市というテーマでもひとしきり意見が出ましたし、あるいは中野の中でも農村部と街中という比較も、首都圏と長野県とパラレルな関係で存在しているという指摘がありました。都市部では特に親が学校に関わることはほとんどなくて、自分たちの学校という意識は薄いと。その分逆に子どもたちを育てるには市民の方が自発的な動きを始めなければという意識もあって、逆に地方では教育は学校にまかせておけばいいやという意識がどうして強いのに対して、自分たちがなんとかしなければ何も始まらないという自律した意識もあるという長所、短所、メリット、デメリットが指摘されました。学校と地域の関係でいうと、今の小学校では親や地域からの学校への苦情の電話が物凄く多いらしいんですね。ある校長先生の言うには、夜電話が鳴れば必ず親からの苦情だというんですね。ほんとうにそのくらい多くて、今の小学校の親は教育は学校にまかせておいて、いわば丸投げをしていて文句だけをつけると。そういう関係になっているという問題点の指摘もありました。それから親の要求がとても多様化していて、多様化していながら親は学校の方に依存し苦情をぶつけてくるという指摘もありました。例えばそういった時に学校選択制はどうかという質問が出て、学校選択制になればもうちょっと自分たちで学校を選んで、選んだ学校に行かせれば、自分が選んだ学校という意識があってそういう問題もなくなるんじゃないかという指摘もあったんですけども、逆に学校選択制には学校選択の問題があって、小学校や中学校は自分たちが、地域が一緒になってつくっていくものという意識が薄くなって、学校というものはそれぞれ特徴をもった学校が自分たちの外部にあって、それをただ選ぶだけという一番いいサービスを選ぶという消費者意識みたいなものがかえって膨らんでしまって、自分たちがつくってい

くという意識が薄れてしまうんではないかという危惧もなされました。そんなふうに都会と地方との比較あるいは学校選択制、学校を地域がつくっていくという視点をどう盛り込むかという議論もひとしきりありました。それから逆に地域が学校にとってどう意味を持つかということについては、授業参観の時に地域のそれぞれ職業をもった親が教室の後ろに並ぶと先生は圧倒されるというんですね。プロフェッショナルが集まっていて、地域にとっても人材の宝庫だと。そういうものも教育に取り入れていくことができればというような意見が出ました。日本の学校教育というのはどうしても知識偏重、詰め込み式になっていて、これが例えば今の世界の学力比較、ＰＩＳＡの学力比較なんかではそうではない生きた知識というものをテストする方式に変わってきていて、日本の成績がガタ落ちになっているという報道が 10 年くらい前になされたんですけれども、地域というのは生きた文脈の宝庫であって、現実の場面が生きた文脈の中で今の知識を見直すような可能性が地域の中にあるのでなないかという指摘もされました。それから幼稚園の関係者がいたんですけれども、中野市の中で小学校、中学校すべて地域単位の学校で、中野市全域を対象にした学校というのは幼稚園が２つあるだけだという面白い指摘が出てですね、そういった意味での広域的な学校の経験を学ぶには幼稚園の例を参考にするのがいいという印象を持ちました。特に幼稚園の場合は、親が自主的に地域の幼稚園ではなく選択をして子どもを入れてくるので、学校と親とのつながりはとても強いというんですよね。意志を持って選択して入ってきて、そういう強さがあるとともに逆に地域が素通りしてしまって、地域とのつながりという意味では逆にそれは希薄になっていくという指摘もありました。幼稚園では逆にそれを補うために、地域に歩くような遠足を取り入れるとか、それを補うような活動をしているというような話がありました。３分の２がバス通学というような状況だと地域とのつながりはどうしても薄くなってしまうという意見がありました。最後の例からきっと教育というのは状況に応じてどういうふうな手を打っていいかというようなことを考えていかなければいけないもので、この審議会で統廃合を議論する時も残すべきだとか、いや潰すべきだとかというような議論をすればそれで終わりなのではなくて、残すのであれば、地域として残すためのいろんな作業にじっくりと取り組まなければいけないし、統合するのであれば統合するための作業というのを気長に取り組まなければいけないものだと思います。現に他の自治体で小学校を統合したところはたくさんあるんですけれども、そのためのたくさんの手を打っていて、うまくいっているところもあれば、うまくいっていないところもあって、軽率にやったところは頭を抱えているところもたくさんあります。昨今の感想というか、最後は私の感想ですけれども。以上で２班の発表を終わります。伊藤さん何か一言ありますか。これで終わります。

会　長：伊藤さん一点だけ。私、最後の伊藤さんと柴垣さんがやりとりされているところを側で聞いていたんですけれども、幼稚園の広域性ですね。あれって現実にはどういうこ

となんですか。中野市の広くからいろんな子どもたちが通園するということですか。

伊藤(勇)委員：私どもは市内で２園だけが私立の教育機関という形で幼稚園がございます。それ以外は全て公立の教育機関となっております。私どもの幼稚園では今、130 人ほどのお子さんがおいでになっておりますけれども、その中の３分の２はもうすでにバス通園で、市内全域ではないですけれどもかなり広範囲から。私たちの幼稚園から各小学校、７小学校くらいに分かれて出ていきます。そういうような形でして、実際にお話に出ましたように地域で子どもを育てていくというのは、私たちの幼稚園では、幼稚園が外に出ていかないと地域のお子さんという意識を持っていただくことは難しいと思います。ですので、子どもたちが歩いているというような通学風景というのはほとんどありません。歩いてきているお子さんたちというのは、10 人に満たない。そのような状況ですので、子どもたちが地域の中で生活しているというような姿はほとんどありません。ただし、地域の中で育っていないかというとそうではなく、逆に幼稚園を外に向けて解放していくというような。逆に自分の地元ではなくて、学校があって生活している場所が子どもたちにとっての地域というような意識を持ってもらうというようなことを気を付けさせてはいただいております。

会　長：ありがとうございました。

湯本(一)委員：ちょっといいですか。今のお話なんですが、実はたかやしろ保育園は科野、倭の４園を統合してたかやしろ保育園を設立しました。今年で 12 年になると思いますが、今年もたぶん今、お話の４小学校から長丘小学校からも来ていますし、遠くは山ノ内からも来ています。そんなことで、うちの孫も今、３人目がここで卒園したんですが最後の言葉が中学になったらまた会おうねというふうなのが、今のたかやしろ保育園の合言葉なんです。そのようなことで、今、保育園と幼稚園は幼保一貫というようなことになってますけれど、中野市の場合はどこの保育園へ行っても受け付けると。たまたま今までは平野保育園が人数が多かったものだから受付をしたが、少子化でもってどこも受け付けてはいるんですが。ただ幼稚園の場合は、長時間がないということで行かせたいんだけれども長時間がないから行かせられないというようなことがあります。それから保育園の場合は、各保育園をみんな私も関心がありますから見ているんですが、昔みたいに歩いて保育園に行く子どもは恐らくなくて、うちの方にしてもバスを出したバス通園、それからお母さん方が、お母さん、お父さん、おじいさん、おばあさんが送り迎えということでもってやってますから。どうなんでしょうか。結局、今の中野市の場合は２人目が半額、３人目が無料というようなことに保育園ではなっているんですが、そういったようなことでいわゆる幼保一貫ではないですが、幼稚園も保育園のようなことになれば、今、伊藤先生がおっしゃるようなことも可能だと思うんですが、なかなか今の中野市の場合はそういったことがまだまだ理解がないというかできないものですから、せめて小学校ぐらいは。今更考えてみても、もう学校も崩壊している、地域も崩壊というか崩壊寸前の状態で、今、20 年先、25 年先になると恐

らく中野市の人口も４万を割ってしまうような状態になる。その時に果たして子どもたちをどのようにもっていかなければならないのかというのが、私はこの統廃合の審議会で一番議論されなければいけない議題だというふうに思っております。以上です。

会　長：どうでしょう他に。各グループの報告をいただいた後のご意見とかや感想がおありでしたら。

古川委員：委員長。

会　長：はい。古川さん。

古川委員：伊藤委員はどこの保育園の園長さんですか。

伊藤(勇)委員：中町の中央幼稚園です。

古川委員：先生もすごく厳しくて、教育も厳しいから誰でも簡単にいかない。学校選択制というのは良くない。中央幼稚園の教育というか先生の努力はすごい。それだけです。

伊藤(勇)委員：ありがとうございます。お褒めいただいて。

会　長：宜しいですか。他に。どうぞ。

市川(大)委員：科野小学校の保護者を代表しております市川大輔と言います。先ほど冒頭に小林さんが倭小学校が人数が非常に少なくなるのが目に見えていて、ひっ迫しているというお話がありましたけれども、科野小学校もそんな形でして、保護者代表として呼ばれているのは４校です。私はこの会というのは、恐らくこの４小学校というのは今一番統廃合が必要な学校なんではないかというふうに感じておりまして、その中でも科野小学校は昨年、報道もされましたけれども、保護者の中で、保護者全員が集まりませんでしたけれども合併しますか、それともこのまま存続を望みますかという会議をＰＴＡ会長が主導してもちました。そこに参加した保護者 100％が合併を望みました。私も地域で生まれ育ったので、できれば科野小学校が残って欲しいとは思いますけれども、実際に今、どういう現状かと言いますと一クラスがだいたい十数人という中ですと、まず学校の管理とかそういうものは保護者の力というのが一番大きくて、もっと言いますと草刈りですとか、結構広大な敷地を草刈りします。それを年に２回やる訳ですけれども、それを保護者でいつまでできるのかというふうに思いますし、また子どもたちが十数人の中で、子どもたちは例えば、自分がどのくらい実力があるのかとか、そういうものを比べる自己肯定力というんですかね。そういうものを育むというのは子ども同志の自分と他人を比較した中で得ていくものではないのかなと。自分の経験則ですけれども思っております。それが十数人の中でと例えば三十人の中でとなるのでは得る自信というものが変わっていくのではないかなと私は思っておりまして、今、十人のクラスよりは、できれば 20 人か 30 人くらいのクラスの中で学んでいった方が、子どもたちがこれから社会に出ていく中で適応していくには、そういう人数も必要なのではないかなと感じております。その中で今の会はこれから各論に入っていくと思うんですけれども、合併というのは今、ひっ迫している学校もありますので、そういう中でまたこれから会の方を進めていただければ、私保護者としてはありがた

いなというふうに思っております。以上です。

会　長：ありがとうございました。その他にもうお一人くらいご意見がおありでしたら。

北原委員：よろしいですか。

会　長：はい。北原さん。

北原委員：長期的にみたらやはり地域というのは、ある程度最近のＩＴ環境の整備ということがいろいろ言われていまして、各家庭一人一台のパソコンの時代と、すでに中野市では防災無線、インターネットなどいろいろありますけれど、各地域で少子化に伴ってどういうやり方をしているかと言いますと、やはり地域のイントラネットと言いますか、地域でネットワークをつくる。そうすると学校間での遠隔共同事業をやるとかマルチメディアの交流システムがいろいろできるだとかそういったことができる訳でして、そういう意味では長期的にみたらその辺の予算措置というのをそろそろやっていかないと、他の地域、日本では相当進んでいるところがありまして。やっぱり少子化、統廃合と同時に、統廃合の方がとりあえず先になるかも知れませんが、長期的にみると、どんどん少子化して次の統廃合、次の統廃合となると、これはきりのない話でして地域を維持するにはやっぱりＩＴ環境、つまり既にできている中野市のお互いにできるだけ安い今アグリネットだとかいろんなネットワークがそれぞれ独立してやっているんですが、これを一緒くたにしましてネットワークを構築すれば、非常に地域間の交流ができるし、子どもたちもお互いに、例えば先生も先ほど宮入先生からもありましたけれども英語の優秀な先生がいたとすると、あっちいったりこっちいったりすることは非常に難しい訳でして、それがイントラネットを使えば十分に教育ができるというような可能性が十分にある。他の地域では既に行っておりますし、そういったことも必要じゃないかなと。そういったことが長期的にみてこの審議会では、一つの長期的な提案事項としてもっともっていくべきではないかなと思います。

古川委員：こうやってやるやつですか。

北原委員：防災無線とかがありますよね。こちらは中野市ですと。それから農協ですとアグリネットといって農協間で今いくら、今日いくら出荷するとかいろいろありますよね。いろんなネットワークがある訳ですよね。既に。整備されている。それをうまく中野市として二重都市にならないようにすれば簡単に学校間で。先ほどありましたように一人の生徒しかいないようなところも同じレベルの教育をすることが。いかに少子化になろうと同じレベルの授業を受けたい、させたい。先生が前にもありましたけれども、一人でいろんな科目、専門以外の科目をもたなきゃいけない。これはある意味では非常に過酷な話でして、それもネットワークを使えばうまく。

湯本(一)委員：いいですか。北原さんの話は分かる。今、東日本大震災で一番犠牲になったのが消防団なんですよ。今、地域の中で消防団になりてがないんですよ。インターネットで人間が移動できるのならいいけれどもそんな時代ではない。今、消防団を守るものがなくなっている。これからはなおなくなってしまう。今、インターネットとかうちの子

どもはやっているけれども、インターネットで英語を話して何を話すのか。地域を知らなくてただ向こうの真似をして英語を話したって、そんなものは自分のためにもならないし何もならない。ただ作ったインターネットの会社の儲けになるだけであって何もならない。そこのところを今ちょっと３歩も５歩も引くなり、10 年、20 年のことを考えてやらないと。私たちは直に死んじゃう。子どもたちが 50 年、60 年、70 年生きる子どもたちをどういう環境にするのかということを、まず考えていかなければいけないのではないか。

北原委員：子どもたちも世界で通用する。日本は中野市だけで住んでいる訳ではなくて。

湯本(一)委員：それは分かるが、それをやったからといって子どもたちには恐らく分からないと思う。これは私と北原さんの話ですが。

小林委員：いいですか。学校選択制という話が出まして、まず選択制をいいとするか悪いとするかという議論もありますけれども、なんで悪いのか私は分からない。例えば中野市全体の学校をどんどん選んでいく。学区に関係なく通ってくると地域が崩れるのではないかといいますが、確かに一時的にはそうなるかも知れませんが、地域は地域、学校は学校という考え方を分けたとしまして、学校の範囲を子どもたちが行き来することによって地域の再編が行われるというか中野市全体が活性化するような気がするんですね。活性化すればそこにいてくれる子どもたちも増えるだろうし。というのは、よこみね教育という保育園の話がありまして、そこの保育園が 50 人に満たない保育園だったんですけれども、教育方法を変えることによって全国から子どもが集まってきて 150 人まで増えています。まだこれから増えていくような状況に変わったということで、やはり中野市の中でも分かれていますけれども、世界規模でというとわずかな一点であって、その中で再編成というかそこで分かれる分かれないというのも、もう一度大きな視点に立って、中野市という点の中での集合体をどう編成していくか。そこに将来の子どもたちを育てていくかというところから見ていきたいなという気はしています。まとまりせんが。

※参考資料(模造紙及び付箋の内容)

１班

地域の特徴を教えにくい

◎問題点

・地域からの働きかけができにくくなる
・今までの地域だけを考えると子どもたちの為にならない
・地域に見える学校へ
・学校に見える地域へ
・地域の特徴(特性、人材)を生かした学校教育

・子どもたちは競争相手が少なくなり、大人になって社会への適応力があるか心配
・地域活動の規模縮小につながる
・農村では畑が荒廃し山と里が近くなり安心して住めなくなる恐れがある
・通学上の問題が出る
・通りを歩く子どもが少なく挨拶の声が少なくなる
・ボランティア活動がしにくい
◎解決策
・学校が地域に向かって取り組む活動の情報を発信する
・地域の伝統行事を学校が何かの形で担う
・地域の人の力を借りる
・ボランティア活動の活性化
・地域の人が学校だけでなく青年層をつなげる取り組みを行い、児童・生徒を参加させる
・学校の教育活動に地域の人を招き学んでいく
・子どもの地域知をパワーアップする授業や活動を学校でやる

地域間の連携

◎問題点
・子どもを通しての親の関わりあいや情報交換が少なくなる
・学級、学校が成り立たなくなり学習が出来なくなる
・地域間の連携が少ない
・祭りや伝統的な行事が出来なくなっている
・中学校を卒業した子どもは地域へ戻るのか
・地域は子どもたちをしばってはならない
・学校を統合することで子どもたちの考えも大きくなる
◎解決策
・女子＞男子の関係
・子どもに限らず地域の人がつながる魅力をつくり上げ発信する
・子どもを育てる環境の整備
・スポーツ大会、音楽会、文化祭
・交流会の実施

子どもの孤立化

◎問題点
・少子化に伴い村が暗くなる
・子ども同志で遊ぶ時に、お互い家が離れていて移動時の安全性が心配
・村の若い人がいなくなり限界集落化
・子どもの遊び相手がいなくなる
・子どもの姿が少なくなり、祭り、イベントの活気が少なくなる

・小学校が少人数で中・高が大人数だとギャップに子どもたちが戸惑いを感じるかも知れない
・仕事をもつ親(特に父親)が多く、地域の中に入れない現状
◎解決策
・相互訪問によるコミュニケーション強化(部落間)
・学校を統合して子どもたちを集団の中におく
・１クラス 20 人以上が保てるような規模の小学校にしていく(合併)

地域の大人との関係が薄くなる

◎問題点
・地域の子どもたちの自主的な活動ができにくくなる
・競争心が落ちる
・学校は教育のための職場ではない
・学校の目的はなにかと思う時、子どもたちには気の毒である
・地域の子ども行事について大人が加わって企画しなければならなくなる
・年齢差の子どもの関わり合いが少なくなり遊びが成立しなくなる
◎解決策
・早く親たちがからを捨てること
・子どもを巻き込んだイベントの実施
・階層別円卓会議の設置

２班

目的によるつながり

地域にとっての学校の大切さ

・心のよりどころ…文化の発祥地
・地域、ふるさとという意識をどう育てるか
・将来への夢、願い…子どもの姿に重ねて描くことができるか
・地域が子どもを知っている…見守り
・学校と地域…①なくしてはならない関係②我々が一番守っていかなければいけない事③老人から子どもまで地域の縦社会を作っているもの④細かいことは分からないが、とにかく持ちつ持たれつやっている
・学校がないことは考えられない「守っていかなければ」
・地域の中の学校とは、子どもへの関わりの地域としての表現である
・地域が子どもに向き合う
・代々の卒業生…地域とのつながりが強い(時間的連続性)
・地域性

・地域教育の中での学校

学校と地域の関係

①都会

・都市部…子どもを学校に出すだけ、親であることを意識しない

・地方は都会と違って全ての子の名前を知っている

・学校に自発的な意識が少ない(信頼感)

・都会と地方の比較…逆に自発的に何かをしなければ

・都市部では地域社会の崩壊(首都圏と中野、農村部と街中)

②選択制

・学校は選ぶところではなく、地域でつくるもの

・要求は多様、依存、即苦情

・学校選択制の長所と問題点

学習の内容が豊かになる

・学校⇄地域…①支え合う②ギブアンドテイク③協力関係

・家庭、地域、学校との連携

・ちゃんとみている…行事のこと、シティーティーチャー

・目の前の子どもが適正人数

・生涯学習

・授業参観…プロフェッショナルのあつまり

何が地域か、広域学校

・幼児をあずける選択、意志、学校と直接

・３分の２がバス、学ぶところ、遠足

３班

地域の力が必要

・学校にとっての地域…多様な教育的ニーズに対応するため、地域の教育力を役立たせて頂く①学力向上、体力向上②豊かな体験活動③安全

・地域の支援が受けられる、地域の見守りの中でいられる学校の位置であって欲しい

・学校にとっての地域…子どもたちに「ふるさと」をつくる営み①産業②歴史、文化③風習④その他

・学校にとっての地域…①共に学び合い、育て合っていく②生涯学習社会につながる③連携・融合

・地域で子どもを育てるにはどうすればいいのか。学校が抱え込みすぎる。学校にまかせてしまう。

地域の中の必要とされる学校の位置

・出ていってしまう子どもたちがふるさとに戻ってこない

・結局は子ども時代に地域で生きてきた事の感動がなければ、地域を守り続けようとする子どもたちは居なくなってしまう

・地域と学校のつながりの歴史は簡単に変えられない事なので、これからも重要視しながら検討しなければならないと思う。
・子どもが地域に居ることは地域が豊かになり、活性化される
・地域と学校…地域と学校が基本。この体形をしっかりと作り上げないとだめ。
・地域の中の文化の発信地ではなくなっている
・地域にとっての学校…地域づくりの活動に子どもたち(学校)も巻き込んでいく。①○○の里づくり②まつり③ボランティア活動等

地域のつながりの変化

・現状として中学は地域とのつながりは(地域スポーツの場、数人の地域講師、保護者も地域、隣近所のつながりは少ない)
・どこまで地域を考えるのか。地域が広くなると親同志のつながりが薄くなる。
・少子化＝地域にパワーがなくなってしまう。
・来年度より 10 年以上小学校へ入学する子どもが一人もいなくなる、また、在校生徒も一人もいなくなる地域においては、より一層学校との結び付きがなくなってしまうことの不安。昔は分校のあった地域で 50 人以上の児童がいた。

（２）その他

会　長：ありがとうございました。残念ですが予定の時間の５時になりましたので、水入りの感じがするんですが。次回以降の審議会の方へ引き継ぎたいと思います。今日はグループ討議の２回目ということで、各グループの代表の方がまとめていただきました。短い時間、時間が足らなかっただろうと思いますが、前回に引き続き有意義な話が出来たように報告を聞かせていただきました。実は今、事務局の方から配っていただいた次回以降の会議の内容を少し意識しながら、今回のグループ討議のテーマを設定させていただいて、しかも報告を今日しまして、次回の第６回審議会、５月連休明けを予定ですけれども、大方こういう内容でやらせていただければどうだろうかということで提案をさせていただきたいと思います。と言いますのも３回目の審議会ですか、委員の先生のお勤めの学校のグランドデザインを紹介していただいて、大きな括りで学校の理念、教育の理念、学校のあり方の話をしていただいたんですけれども、具体的にどんな取り組みをやっているのかということをもっと踏みこんでといったら変かも知れませんけれども、具体的にお聞きしたいと。特に今日のテーマ、地域と学校中で、地域というのはどういう括りというかイメージもったらいいのかというところで、大規模校や中規模校あるいは小規模校では地域のあり方、学校のあり方は違うだろうからという意見があったんだろうと思いますが、次回の審議会では、できれば比較的大きな規模の学校での具体的な取り組みの様子、そしてもう一つは比較的小さな規模の学校の取り組みの様子を 20 分程度説明をいただいて、それを基に学校教育の現状について全員でディスカッションできればいいなと思います。これにつきましては年度

替わり、新年度に入りますのでどの学校のどの先生にお願いしたらいいのかというのは事務局の方から打診をさせていただいて、引き受けていただければありがたいですけれども。少し調整をさせていただきます。ですので、今日具体的にどの学校のどなたというふうには決めておりませんが、この辺の学校の選択制、人選は事務局に任せていただければと思います。次回の内容です。そして併せて次回以降ということで、７月に予定をしてあるのが第７回になりますけれども、第７回の審議会はやはり地域というキーワードがこの審議会で頭の中心にあるのですけれども、中野市だけのことではなくて、それ以外の地域の取り組みについても我々審議会のメンバーは当然知っておく、勉強しておかなければいけないだろう。そこにいい知恵があるかも知れないし、ひょっとしたらそういう方向ではない新しい方向を我々目指した方がいいのではないか。いろんな形のアイディアが溢れているだろうと思います。第７回目は木島平村小学校の関先生にここへ来ていただいて話題提供をしていただこうと思います。詳しくはまだ先ですので、お話をいただく前にこんな取り組みをなさっているということをちょっと事務局の方からもご説明して。それではどんな話を聞けばいいのかという準備をしてから関先生の話を伺いたいと思いますが。先方の関先生の方はご快諾いただいていますので、７月の末ぐらいかなということになります。お話をいただく予定です。新年度、こういう予定で第６回、７回と進めていきたいと思います。先ほど第２グループですか、柴垣さんの方から統合のお話が出てきたように、身近なところで言えば長野市にも廃校になる小学校、あるいは松本にも確か統廃合がありましたよね。最近では上田の浦里小学校が統廃合の問題が再燃しているというようなどこにでもある問題かと思いますけれど、そういう意識、現状の中で我々審議会に求められる役割というのはとっても大きい感がしております。新年度、来年度も是非この審議会に宜しくご協力いただいて、次回に向けて準備を進めたいと思います。何か堅苦しい挨拶になりましたけれど、その他のところで次回の会議の内容をお伝えしようと思ってお話させていただきました。何か。

柴垣委員：事務局への要望なんですけれども宜しいですか。前回もちょっと懸念を表明しておいたのですけれども、今日も地域の代表者の方がみんなお休みなんですね。事務局の方は２年間の任期で、２年間通して団体の代表者が変わっても審議会の委員は継続してやっていただくようにお願いしてあるというような話なんですけれども、みなさんもご存じのように中野市では団体代表としてきている人は自分としての団体代表の長としての役割が終われば変ってしまうことの方が多いので、今日休んでいる方なんかは、変わってしまうのではないかという疑念があるんですね。傍聴にこられた今までの前回と前々回の方から、地域の方の出席が少ないということが問題になっているという話も耳にはさんだので、このまま地域の人が中野市の通例のように１月とか４月で変わってしまって新しい人になっていけば、ますますその方たちは、自分たちだけが取り残された感じがして、出遅れてしまって出席がなくなるということが懸念されて。

そうなると折角、学校関係者、ＰＴＡ関係者、地域代表者を入れて構成した審議会の正当性がなくなってくると思うので、事務局の方にはつとめて留任していただくようにと。あるいはどうしてもできない場合は、少なくともあと一年半を残す任期は全部全うできる人を次は選んでもらいたいということを重ねて要請してもらいたいんですね。そう要請しなければ必ず４月で交代してしまうと思うので、この審議会の議論を身のあるものにするためにも、是非とも事務局の方はそういう丁寧な要請、働きかけを委員を送りだしている団体の方にはしていただきいので宜しくお願いします。

会　長：地域の委員の方というのは区長会ですか。

柴垣委員：そうです。今日は一人も来ていないですし。

会　長：伊藤さん、雲野さん、藤沢さんという三人の委員の方。

古川委員：委員長。それは私たちの地区の地域の代表として来ているんですが、組織から出ているんだから組織が終われば来ないとはっきり言われた。その後、事務局長、交渉したのですか。私たちの地区の雲野委員。組織から出ているので、組織が終わればこないと言っている。本人が私に言った。

会　長：柴垣さんのご意見は２年。

柴垣委員：これはもう丁寧にお願いするしかないと思うんですが。

会　長：今回、年度をまたぐから。

柴垣委員：もう一回またぐんですよね。

古川委員：もう一回またぎますね。12 月で交代しますから。

会　長：実質的にはむこう１年。かなり議論を重ねないとということですが。年度をまたぐ可能性もあるということですね。

柴垣委員：事務局に努力をお願いするしかないんですけれども。本当に通常では絶対に変わってしまうので。今の古川さんが言うように。10 人行って土下座するくらいのお願いをしないと。宜しくお願いします。

事務局：今、柴垣委員と古川委員からありましたけれど事務局としてもそういうことでお願いをしていたのですが、また重ねて要望は申し上げて人選していただくようにします。宜しくお願いします。

古川委員：委員長。こんないい雰囲気なんでわざわざ先生を呼んでくる必要はないのでは。このまま続けて集中審議をした方がいい。今日はいっぱいいい意見が出た。

会　長：わざわざ呼ぶという訳ではなくて、きっと先生方もいらっしゃるからお願いしますというふうに。またお話を伺おうと。

上原委員：すみません。手短に話しますんで。要望なんですけれども今日、地域にとっての学校という大変有意義なお話をいくつかお聞きできたと思います。私個人的には、保護者にとっての学校というテーマをどこかでお聞きしたいなと。今日も自由選択制というのにもご希望があるということで。要するに保護者にとってこれからの学校をどういうふうにイメージされているかという。これは非常に重要な問題かなと。

会　長：子どもの親、保護者。

上原委員：やはりＰＴＡの話がなかなか話題になってこないんですけれども、保護者間では学校規模とＰＴＡ活動の問題というのはくすぶっているような気がするんです。そういうものが表に出てくるといいなと思います。

会　長：こういうグループ討議のテーマには据えなかったんですが、次回、先ほどお渡ししたメモの中にＰＴＡとの連携は当然、学校の具体的な取り組みの中で中心の一つになると思うんですが、またその辺のことは考えさせていただこうと思います。それでは先ほど柴垣さんの件の前に、一応私、次回それから次次回の６回、７回と会議の内容予定を提案させていただいたんですけれども、こういう流れ、内容でよろしいかということだけ今日確認をさせていただこうと思いますが。宜しいですか。

古川委員：そんなのんびりなことは言ってられない。

会　長：かなり盛り上がってきているので。

古川委員：時間が経つから盛り上がった雰囲気がしぼんでしまう。

会　長：次回はさらに盛り上がるだろうと。次回は第６回目５月の連休明けということですが。今日、何日というふうには決められないということで、なるべく早めに予定の連絡をさせていただくということでご了解ください。宜しいですか。では５時を回りました。今年度最後の審議会、今回で終わりになりますが、異動とか任期等の理由で今回がおしまいという委員の方がいらっしゃるかも知れませんけれども。これまでありがとうございました。次回以降も宜しくお願い致します。副会長さん、何かあれば。

副会長：一言だけ。大変どうもありがとうございました。今日、学校と地域ということでちょっと大きなテーマとして提案させていただいたんですけれども、皆さんの方からほんとうに多様な鋭い視点を見つけていただいた。私はこれが一番大きな収穫だったかなと思います。視点を見つけていただいて、そこから切り込んでいただいて、今まで気づかなかったことがたくさん見えてきておると。しかもそれも次に進む方向につながるような大事な意見を頂戴しました。会長の方からこの後申し上げていただきましたが、ご協力いただいて進めていただけたらなと思います。なお、私ども人間が入れ替わるという。かなり入れ替わると思います。その人たちにダイジェストで、今まで積み上げてきたものが伝わって、そして停滞しないようにして前に進んでいくような、そんな工夫もしてまいりたいと思いますが宜しくお願い致します。大変どうもありがとうございました。

４　閉　会（17:15）